

# 阻止委中間総括号

なんばあ2

## 阻止委中間総括号

- ・経過報告中間総括方針提起
- ・各サークルよりの投稿
- ・議事録
- ・各部局報告(政対・財政)
- ・本館付連報告
- ・11・19公判報告

明治大学二部  
編集責任 研連阻止委

私達研連阻止委員はおもろ二日 る日の運動抗争を  
断乎として國に抗し、現在優等席争の最慘的問題  
を迎へ、ひとつに四年の間に田中統括を要求して  
いるといふが、それ、何をしても、4月以前の更なる白箭の国際争の昇場、進化させ  
ら取らんための廢いとしてなければならぬ。

今後首領等は、絶えず當局に权力の徹底強  
化により困難さを嘗めり、眞面目を重んじて、いつ  
に、そして私達の立場で、その難處を当局にね力  
の、最も訴へてじきった事は、過上院も許され  
ないものとしてあせなれらざり、ことに前年の私達の  
闘いの始動、形勢の一歩口、眞面目に尋ねらるゝも  
って危めなればならないだ、しなひ、しゆし  
るが、結果的に國と直上の御内閣入閣の進行を  
許してしまつた現在、實に、誰もこの限りの不  
満をも追撃の隊列と感じて、必ずしも、國の不  
詳すべきダメの当局に反力を諭める事では  
きらい。私達口承して、からを許して、新思潮  
を訴えて、正論化して、それを当局に対して銳く  
攻撃を認めて、やめにいわてた、それで、改めて  
この口承を認め、やめにいわてた、それで、改めて  
この口承を認め、やめにいわてたことを確認してお

ります。その邊縁の辺りに、も入喰してくる新  
入生と共に運動をやめこいくと、皆場所はな  
いよたり、現の、國の政治が恐れぬるを得な  
いという私達にとつての意図を試験である。しか  
し私達には、その意圖的意図をもつて、田中以降の  
困難な事例を想定していく必要があります。これがた  
めに、新入生の現状をしわたりと目張りしていく  
のと同時に、現段の私達の立場、和解を確固す  
く一定の中間報告書を作成すると想定する。

私達の統括作業とはまじつて、起つて、確  
かにやめにいわてた、個々のサークル員々、自  
主的にやめにいわてたことを口承する。こ

74年学費斗争中間総括  
活動委員会  
方針提起

の「通路を守り、その禁居作業を進めるために  
たつての四ヶ条、スマップの役割をもつて重視す  
く希望してあります。  
(No.1)

74年学費斗争中間総括  
研連阻止委  
(事務局)

全ての被反議者、回志サークル、自議者、

直活動委員会  
方針提起

阻止委の活動について、多くの通路創刊号を  
参考にしたる原稿を参考して、そ  
の書記局の詳細にわける原稿を参考して、そ  
の通りに、この場で、通信創刊に就き断案に  
クリアに、この場で、通信創刊に就き断案に  
述べさせてく

25 11月16日 締成集会(錦華公園)

26 11月17日 サークル北大支会計議集会

27 11月18日 総体大会

28 11月19日 総体大会

29 11月20日 総体大会

30 11月21日 総体大会

31 11月22日 総体大会

32 11月23日 総体大会

33 11月24日 総体大会

34 11月25日 全体会議

35 11月26日 全体会議

36 11月27日 入試奉行抗議判決闘争

37 11月28日 全体会議





ハ

内

3・3

東京地裁七〇一法廷

19

三月五、六日の正節における入試志願に

明大最高責任者加藤五郎が誠意口に立つて、

聞の

大切時間に間に合つた対策本部で決

主要に。

11・19

に至るまでの経過。

ハ

定したと誠意口に立つて、翌日、商業新

聞の中でも唯一明大と関係を持つマジの毎日

眉まづりあり、誠意口に立つて、いた加藤

五六は、今回が最後とあって肉体的疲労も

見せず、ある種度急進して来たと見えて、

奮斗したが被否され人の追求を要げて、

19の教職員説明集会がナガアリ

こと

は自明の事実であることがほんと裏切られた。

ハ

ハムの事の経過。

ハ

11・19の日の理事会で學費値上げを決

定し、その段階で名前部長フランク学長

ハム

## 研究阻止委にむけて//

久經理研究部の内裏森  
に意図せぬべたいと思  
う。我々一團は本館地下  
に部室があり、昨年暮の日  
にサーカル活動は日常的サ  
ク活動は全く行なえられ  
ていい。壇議的打撃を受ける  
てゐる。現在までは爲憲な  
条件で喫茶店における祭典  
会及び有志下宿における學  
習会奉納作業、奉養生徒工  
等々によりがろうじて、  
サークル内の活動と連絡を  
保つてゐる。あり様である。  
亦在研究活動においては、  
講記会計学といふ特殊性に  
より各個々人にによる自宅等  
習という形で行なつてゐる。  
しかし否名近い部員をふ  
うする為場所的時間的に、  
総会を開く事ができず、學  
費値上、ローワーカーに對  
しての總意も結集できず、  
新歓体制も満足に整えられ  
ない。そして何より我々の  
地盤なる研究活動の中身を  
余儀なくされ、サークル員  
相互の友交關係すら分断さ  
れている現状は全くの敗北  
であると考へる。

しかし我々は目前に新年  
度を控えこのまま長くず  
しに平常化してしまう事は、  
残念ながら学友諸君の内に  
ある所であり、全學友諸君の  
全面的敗北であると考へる。

新入生諸君！  
入学おめでとう！  
しかし状況は決して甘く  
ない！  
文責、副幹事長、堤

はその事をへおしお歓迎す

る氣配すら感じられる。必  
要と云ふことは、我々は当層の學生のそ  
の態度を斷固として許さず、  
その為にも阻止委を中心と  
する全學的斗争をより一層  
發展強化させなければ、  
ならないと考える。

最後ではあるが新入生へ  
のアピールとして、今後の  
大學当局による非劣等差別  
的攻撃を決して許さず今  
後諸君が支払わねりればな  
らない不當存続費に對し、  
怒りを持って対処する事を  
望む。すくなくとも、この  
學費値上一二都政廳攻撃に  
對して何らかの意識を持  
てほしい。

- 8 -

## 駿台日本史研究部

12月 日以降 国語がローリックアウトされ

当面の問題として場所を確保することが必  
要となった。門限には合なかつたけれど、  
各サークル員の意の中に、どのよう空状  
況になつてもサーカル活動は停止せない  
といつ事が、なつことは確がであつた。

しかしこの間、日本史研究部が凶暴してい  
き事が、大きき問題として蘇つた。そ  
れは遅いこまれたれの状態で、何ら監督  
なものとしてサークル内で問題化しなかつ  
たことと説明出来る。このような状況  
の中で、さうの運動「阻止委」が参加しない  
者は、運動を「サークル活動とは関係がな  
い」と云ふ振舞して來た。このことは、  
日研の位置づけ、學習会乃至サークル活動の不

徹底が表れていたのではないか。たゞか  
と、考へる。

阻撓する運動に対しては、日研にがまらず  
とした研究活動を講座制(有資格上級生が親切に指導  
しての總意も結集できず、  
新歓体制も満足に整えられ  
ない)をして何より我々の  
地盤なる研究活動の中身を  
余儀なくされ、サークル員  
相互の友交關係すら分断さ  
れている現状は全くの敗北  
であると考へる。

多くの諸君が我經理研に  
入部する事を望みます！

多くの諸君が我經理研に  
入部する事を望みます！  
文責、副幹事長、堤

いる以上、當然、健善なサークル活動を行  
う权利があると、いうもので、少しでも、こ  
れに反する運動行動に対して、断固とし

て斗い勝負をゆく態度は正しことのう  
ので、ということを再び譲る程ではない  
と思う。この運動は、學門に於いて、文  
化的なサークル活動、人間としての基本的  
な権利の状態、學生を單なる無権利な  
商品としてのみ扱い、自らの誇りをすでに  
明治大學生、正しく姿に変える目的に在る  
所に、然は有り、どう形で参加していざ  
彼らがこの運動を、「一部異常學生」として、  
宣伝攻撃していざ。がしかし、本当に僅達  
の事を知っている人々は、正しくこの運動  
を評価してくれると思つてゐる。

新歓に際して、新人生達に、阻止委の本質  
を、訴え、阻止委を、よりよく理解してま  
らねばならないのではなかろうか。  
私は、静かなる斗争と激なる斗争との二  
つの手段(即ち、日常の學習会活動と、統  
一集会、行動と)を備えて今後、展開して  
ゆかねばならぬと思つて、います。  
下らぬ文章を一枚にわたつて、書かせて  
くれたことに、感謝しています。へー有志  
を主張することは、当然、あたりまえがこ  
となのであると考へてゐる。

今一番問題になつてゐる「今一つの…」  
は、やはりサークル自身が、明確にサーク  
ルの位置づけて、何ら討論がなされてい  
ないからではなかつたか。この運動体  
が正當であるか否か、大學によって認められて  
いる

雪 送 より

私はただ、  
いま住んでいる場所が  
人間の世でないことと  
を感じるだけだ。

## 活動報告 一、入学習会とあくまで

駿台教育研究所

研究部

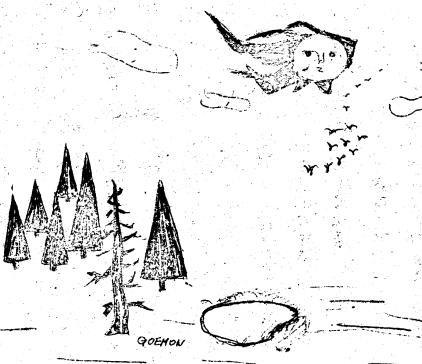
教員研修部 以下教師とすれば、一日以降の活動。

その後の個別指導の集会が開催され、まず問題。

会員の方々が決意表明が決意表明された。

人テーマによる問題が決意表明された。

したがって、この問題が決意表明された。



— 10 —

## 二部考収文有志 活動の現況報告

大蔵当局の赤電裏口による一方的政策。

上位上位は、現在の明大教育における課題。

課題を何ら解決するものではなく、層次を設

置などと云う形で既に生きてゐる事にとては

正に致命的であり、歎嘆的な現在の「教育」

機会内等行政」中に於いて、現状の差別

差別をより擴大するものでしかない。又

また大幅修正による、明大当局は教育研究

上でも論議のところに提られた、代々け

皮肉窮屈としてこよなつておれば、上げ

に対し、阻止斗争を斗い続けてきました。

この辺において、明大考収文の皮肉窮

屈生に対する差別教育へ取扱いに附す。

考収文に対する差別教育へ取扱いに附す。

指し現在のいままで、明大ブルジョア考

古を再建し、更なる強化（資料館・一元

支局・管理のための合理的な組織再編）を

計らへ、一月廿日明大考収文講座開設

近隣書院ハーディを行なった。我々は、

これを問題視し、彼らのこのような行動を

阻止せんとこれに入し、その時、2月中

考収文講座との話し合いで確約

されたが、彼らは、一ヶ月に一枚を複数

逃げようとしている。我々はこのよう

考収文の態度を許すことなく、人民の歴史の

この年において、明大考収文の皮肉窮

屈生に対する差別教育へ取扱いに附す。

考収文に対する差別教育へ取扱いに附す。

## 推進会議

## 活動スケジュール

## 編集後記

この一年間、皆研は研連・阻止委に主導的に取り組んできました。研連・阻止委に向けた積極的な取り組みをしてきました。

この一年が一番重要な問題であった。「学園問題」に含まざる全く我々サークル員によく問題の空虚感が不必要なロクアラウトは崩壊寸前であります。しかし、その段階から始めて頃から行きました。それが少しだけ私たちに、行動権を与えました。それは自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意図で、自分たちの行動権をより強調する意団であります。

このようにして、今後も研連・阻止委は、自分たちの行動権をより強調する意団であります。

4月1日 午後1時半から公判斗争  
午後2時半全体会議  
地下

2日 326番  
西止泰全體会議  
地下

3日 研連サーカークル連絡会議  
地下

4日 研連本館サークル連絡会議  
地下

5日 作業半タローレ

6日 入浴会  
赤羽温泉  
地下

7日 新規開拓(カイタンス)

8日 武道部  
地下

9日 研連出店開始(5日目)

10日 サークル紹介

11日 映画・講演

## 編集後記

全ての反対派サークル員のみなさん、皆様へお詫びを述べたいと思います。どうぞよろしくおねがいします。また、研連・阻止委争を扱っている全ての関係のみなさん、諸君に阻止委連絡会議を送ります。苦惱と葛藤をかいくぐり当局微々たる問題への主張が受け入れられず、何とかして自分たちの意見を伝えるための準備が進んでおりました。これが、研連・阻止委は、自分たちの行動権をより強調する意団であります。

この一年間、皆研は研連・阻止委に主導的に取り組んできました。研連・阻止委に向けた積極的な取り組みをしてきました。

この一年が一番重要な問題であった。「学園問題」に含まざる全く我々サークル員によく問題の空虚感が不必要なロクアラウトは崩壊寸前であります。しかし、その段階から始めて頃から行きました。それが少しだけ私たちに、

## 3.27 推進会議

以上

No.12

阻止委員會通信 No.2

發刊一九七五·三·三十一

明大夜間部研究促進會  
學費上阻止委員會

力三八 五十円